

ウィキペディアタウンからウィキペディア文化財へ

青木和人（立命館大学歴史都市防災研究所・Code for 山城）

From WikipediaTown to Wikipedia Cultural Properties

Aoki Kazuto (Insitute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University, Code for Yamashiro)

- ・オープンデータ／Open data・ウィキペディア／Wikipedia・デジタルアーカイブ／Digital archive
- ・市民参加／Citizen participation・地域情報／Local information
- ・文化財／Cultural properties ruins・GLAM連携／GLAM collaboration

はじめに

インターネット百科事典ウィキペディアは、インターネット検索エンジンの検索時に常に上位にランクされる。そのため、無料で閲覧できるインターネット百科事典として、一般社会に広く認知・利用されている。ウィキペディアが誰もが自由に編集に参加できることも広く知られているため、小中学校の教員が生徒にウィキペディアを信用してはいけなと教えていることも多いようである。

一方で、自らウィキペディアの編集に参加した経験者は少ない。その背景には、編集に伴う誹謗中傷や編集合戦などのネット上のトラブルが必要以上に喧伝されている点がある。最大の原因はウィキペディア編集のルール、編集方法をきちんと教える仕組みや団体が存在しないことである。そこで、筆者らはウィキペディアのルール、編集方法を伝えて、自分たちの地域のことを地域住民の手でウィキペディアに編集するウィキペディアタウンの取り組みを行っている。本稿では公共図書館の地域資料を地域住民参加型で活用するウィキペディアタウンを行っている視点から、その意義について述べ、ウィキペディア文化財への展開可能性について述べたい。

1. ウィキペディアタウンとは

ウィキペディアタウンとは、その地域にある文化財や観光名所などの情報をウィキペディアに掲載し

ようという取り組みである。世界初のウィキペディアタウンは、2012年にイギリス・ウェールズ州の人口9,000人のモンマスという町で行われた。このウィキペディアタウンは町の文化財や観光名所などのウィキペディアページを作成して、その建造物や展示物に、ウィキペディアページへのアクセスができるQRコードを付けるという行政主導の事業的性格の強い取り組みだった。

日本初のウィキペディアタウンは、2013年5月25日に横浜オープンデータソリューション発展委員会により横浜中央図書館にて行われた。横浜では全5回のウィキペディアタウンが行われたが、その後、継続的な活動には至っていなかった。京都を中心にITによる市民協働活動をする筆者らは、この取り組みを地域住民主体の地域情報発信イベント：日本版ウィキペディアタウンにリニューアルして、2014年2月から継続的に行っている。私達のウィキペディアタウンでは、地域住民と地域の公共図書館、地域の歴史まちづくり団体、行政を連携させ、まちあるきを組み合わせて公共図書館を会場とした継続的な活動を実施している（ウィキメディア財団2021a）。

私達が考えるウィキペディアタウンは、ウィキペディアが誰もが自由に編集できるなら、地域住民が自分たちの地域のことを調べて、自分たち自身でウィキペディアに編集して、地域の情報発信をしようというものである。主に1日イベントとして行うウィキペディアタウンは、午前中は趣旨説明の後、

まちあるきにて現地調査を行う（図1）。午後は、文献調査やウィキペディア編集方法について説明を受ける。その後、グループごとに3時間程度、地域資料を確認し、文章を作成し、資料の出典を付けてウィキペディアの編集作業を行う。

私達のウィキペディアタウン活動は、地域の将来を担う高校生にも取り組んでもらっている。2016年7月28日には京都府立南陽高等学校夏季プログラム社会実習「ウィキペディアタウン by 南陽高校」が国立国会図書館関西館の協力で行われた（青木2016）。この取り組みでは、地域の歴史活動団体に、南陽高校の近くの集落を一緒にまちあるきして、高校生に地域の歴史を伝えてもらった。そして、そこで知ったことを地域の高校生たちが地域資料を調べて確認した上で、地域資料の出典を示しながら、高校周辺の古くからの地域である「乾谷」と「柘榴」地域を説明するウィキペディアページを作成してもらった。本取り組みでは地域のことを古い世代から若い世代に伝えてもらい、若い高校生たちが得意なITを使って、地域のことをウィキペディアに編集して、ITを通じて情報発信する地域の世代間交流によるウィキペディアタウンが実現できた。

「うちには観光地が何もないし」という声を地域の方からよくお聞きする。私達はウィキペディアタウン活動を進めていく中で、むしろ観光地が何もないと思っている地域こそ面白いのだと気が付いた。観光地でないだけで、ウィキペディアタウンで地域を調べてみると、地域には歴史・文化的に貴重な資産がいくらかでも存在している。ただ、それらは観光業者の商業ベースに乗っていないため、観光情報として発信されていないだけなのである。

また、あまり知られていないがウィキペディアの情報はGFDLとクエイティブ・コモンズ・ライセンス(CC-BY-SA)のもと、ウィキペディアからの出典であることを明記すれば自由に二次利用できるオープンデータである。そのため、ウィキペディアに編集した地域情報が、オープンデータとして再利用されることで、より地域情報が伝搬していく可能性もある。

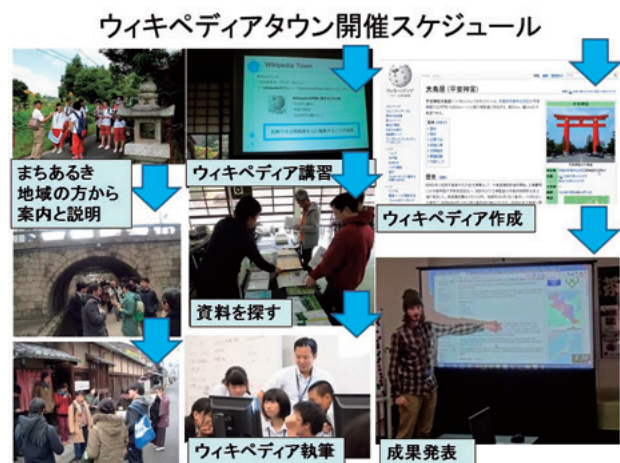


図1 ウィキペディアタウン開催スケジュール

2. 引用文献に基づく記述

次にウィキペディアの編集方法について説明したい。ウィキペディアの編集には基本原則「5本の柱」という以下の方針が示されている（ウィキメディア財団2021b）。

- ウィキペディアは百科事典です
- ウィキペディアは中立的な観点に基づきます
- ウィキペディアの利用はフリーで、誰でも編集が可能です
- ウィキペディアには行動規範がある
- ウィキペディアには確固としたルールはありません

ウィキペディアの編集内容は、行動規範に基づく参加者同士の自治に任されているが、「中立的な観点」「検証可能性」「独自研究は載せない」という三大執筆方針が明示されている（ウィキメディア財団2021c）。ウィキペディアは百科事典のため、独自研究など個人の主観による記述をしないことを求めている。そのため、他人が書いた論文や書籍、新聞記事などの資料を基に、その内容をまとめて書くことが必要である。編集内容は、ウィキペディアコミュニティにおけるボランティアのウィキペディア管理者がチェックしており、執筆方針に基づかない内容は、管理人により引用文献の追記依頼などが行われ、最終的には削除されることもある。

ウィキペディア編集に際して、資料文章の丸写し

は、原資料著述者の著作権侵害となるため禁止である。資料を読み込み、資料の内容を抜き出して、自分なりに端的にまとめてウィキペディアに編集する必要がある。そして、その内容がどの資料に基づくのかを明確にするため、資料の出典を明記する。出典明記により、ウィキペディアへの編集内容が、誰がいつどの資料に書いている内容なのかが明確になる。これが検証可能性の担保である。この検証可能性を担保したウィキペディア編集により、編集内容への疑義や興味が湧けば、読者が原資料を直接、閲覧・確認することが可能になる。私達はウィキペディアにこのような文章を増やしていくことで、社会からより信頼されるようになると考えている。

この引用に基づく文章作成作業は、論文記述の冒頭「はじめに」の記述内容そのものである。前半は、ある研究分野について網羅的に調べ、誰がいつどのような研究をしてきたのかという研究実績について、出典を明示しながら内容を端的にまとめて記述する。そして、後半では今までされてない内容の研究を自身がすることを高らかに宣言する。

ウィキペディア編集は、この「はじめに」前半の記述作業そのものであるため、ウィキペディア編集能力の獲得は、アカデミックライティング能力の獲得につながる。このことから、ウィキペディア編集は、大学におけるアカデミックライティング教育に最適である。大学教員が大学図書館と協力して、様々な分野のことを記述する練習を1、2回生の段階で行うことは、卒業論文作成に大いに役立つだろう。また、学生にとっても、多くの人の目に触れるウィキペディアを自ら編集するという緊張感と達成感から、学習効果が高まることが期待される。

3. 図書館の地域資料の活用

では、地域情報をウィキペディアに書くための地域に関する本や新聞記事などの地域資料は、どこで閲覧したらよいのだろうか。それが地域の公共図書館である。公共図書館は住民への責務として、当該地域に関連のある資料を網羅的に収集している

(日本図書館協会図書館政策特別委員会1989)。そのため、地域の公共図書館には地域資料を集めた地域資料書架がある。ただし、地域資料書架の利用者は少ない。夏休みの終盤に宿題で小中学生が地域資料を探しにくることや地域の歴史探求を行う高齢者がたまに閲覧する程度であり、あまり活用されていないのが現状である。

また、2005年の文部科学省調査研究報告書では、今後の公共図書館に地域社会における情報蓄積・情報発信の拠点としての新たな役割の必要性が指摘されている(文部科学省2005)。そこでは目指すべき公共図書館が優先して取り組むことが望ましい地域情報提供・地域文化発信の課題として、地域文化のデジタルアーカイブによる発信が挙げられている。

私達の活動も、当初はウィキペディアタウンのコンセプトが知られていないことから、公共図書館と連携して行うことは難しかった。しかし、2014年8月30日、第4回開催以降、公共図書館と連携し、図書館を会場として、地域住民の地域情報発信拠点としての公共図書館の役割もウィキペディアタウンにより実践している。地域資料の出典を付けて内容をウィキペディアへ編集するウィキペディアタウンは、地域資料をウィキペディア編集のための引用文献として、地域住民参加型で活用する公共図書館の地域資料の新たな活用方法を提示している。

本活動を通じて、ウィキペディアタウンは埋もれている地域の歴史・文化情報を図書館の地域資料を使って、地域住民自らで発掘・情報発信して、地域情報を伝えるものだと思い至るようになった。そして、世代の異なる地域住民が共に地域を歩いて、図書館で地域資料を調べて、ウィキペディアで地域情報発信することで、地域住民が地域への愛着・誇りを醸成することに貢献できると考えている(図2)。

ウィキペディアタウンの意義は、これまで様々な地域で行われている「まちあるき」で地域の再発見をするだけでなく、その後、地域住民自らが、地域資料を利用して、きちんと文献調査して地域理解を深め、その成果を情報発信する点にある。観光地で

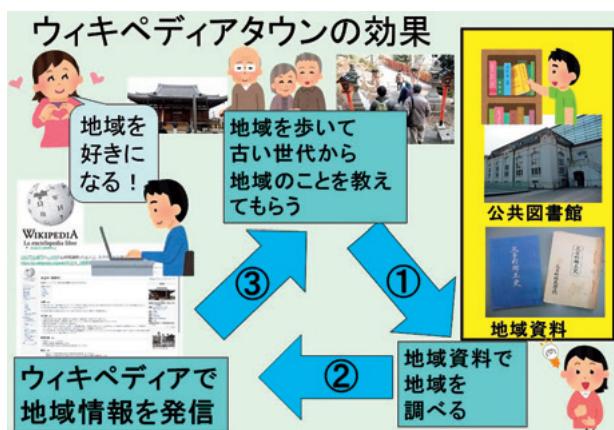


図2 ウィキペディアタウンの効果

ない地域では、地域では誰もが知っている寺社仏閣や文化財に関するウィキペディアページがほとんど存在しない。これらのページを作成して、一日のウィキペディアタウンの最後には、作成した編集成果がすぐにウィキペディアに反映され、その日にインターネットを通じて見てもらえる即効性もある。

また、地域資料の部分的なデジタルアーカイブを果たす意義もある。現在までに蓄積された紙媒体によるアナログ地域資料は膨大な数に上る。これらを早急にデジタルアーカイブ化することは容易ではない。アナログ地域資料の完全なデジタルアーカイブ作業が実現されるまで、地域資料のデジタルアーカイブを簡便に実現し、インターネット上で地域資料内容の検索やアクセスを可能とすることが求められている。地域資料を基にその内容を出典明示の上、ウィキペディアに編集することは、地域資料の部分的なデジタルアーカイブ作成になり、インターネットを通じた地域資料へのデジタルな入り口を作ることにもつながっている（図3）。その結果、埋もれている膨大なアナログ地域資料へのデジタルな入り口をウィキペディア上に作ることで、インターネットを通じた地域資料の再発見機会を提供することにもつながっている。

私達は図書館連携でのウィキペディアタウンだけでなく、GLAM連携の観点から地域の美術館と連携した情報発信をウィキペディアにて地域住民参加型で行う日本初の「ウィキペディア ARTS」も

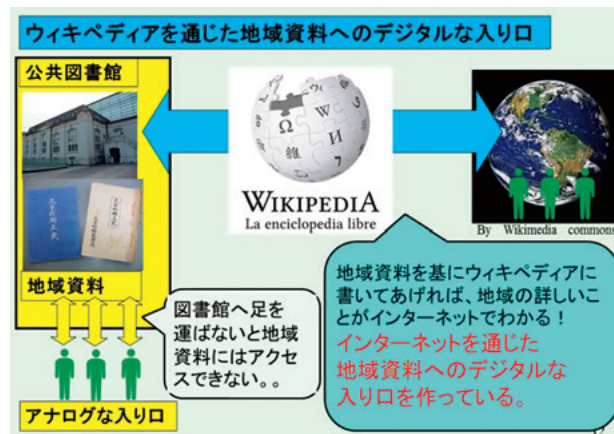


図3 地域資料へのウィキペディアによる入口機能

行っている。2015年4月19日には、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 を対象として開催した（ウィキメディア財団 2015）。当日は全 33 名の参加者が PARASOPHIA を鑑賞後、6 つのチームに分かれて、関連作家や作品に関する情報を、京都府立図書館の所蔵資料を利用して、ウィキペディアに PARASOPHIA に出展している現代芸術の作家 6 名の新規ページを作成・公開している。

4. ウィキペディア文化財への期待

このウィキペディアタウンの地域資料活用の枠組みは、そっくりそのまま文化財資料に読み替えることができる。それにより、地域の文化財を取り扱う博物館、郷土資料館の文化財資料を地域住民が利用して、ウィキペディアに編集して、地域の文化財情報を地域住民が発信する「ウィキペディア文化財」の枠組みを創出できる。ウィキペディア文化財は、文化財報告書資料を出典としてウィキペディアに編集することで、地域住民の手で地域文化財情報を発信する新たな文化財資料の活用方法となる（図4）。

全国遺跡報告総覧内に公開された文化財論文ナビでは、全国遺跡報告総覧内に文化財論文情報を登録でき、登録データは CiNii Articles で検索・利用できる。また、全国遺跡報告総覧では記事単位の登録データに NAID と DOI を付与する仕組みが実装されている。ウィキペディアにこれらを出典情報として、その内容を編集することで、多くの人が利用す



図4 ウィキペディア文化財の意義

るウィキペディアを入り口とした全国遺跡報告総覧の文化財資料へのアクセスの入り口が作れる。

全国遺跡報告総覧には、書誌情報をウィキペディアの引用記述記法に則って出力するウィキペディアテンプレート出力機能が実装されている。例えば「平成26年度高森町埋蔵文化財発掘調査報告書」（高森町教育委員会2016）の引用表記欄のウィキペディア出典テンプレートを開く（図5）と、ウィキペディア記法に則った出典テンプレートが表示される。この出典テンプレートをコピーして、ウィキペディア編集時にウィキペディアの出典表記法である<ref></ref>タグで囲んで、該当ページをpage=**として、編集することで、ウィキペディア記事文中に引用できる（図6）（codefor山城2021）。出典には、DOIが表記されており、存在するものはNCIDとJP番号も紐づけられた出典を表記できる。

このように、全国遺跡報告総覧の出典を付けたウィキペディア記事が増えることで、全国の文化財報告書を典拠とした検証可能性が高く、より信頼されるウィキペディア記事増加の可能性が高くなる。また、多くの人に広く利用されているウィキペディアを入り口とした文化財報告書へのアクセス性の向上が可能となる。そして、このような全国遺跡報告総覧の書誌情報のウィキペディアテンプレート出力により、地域住民が自らの地域の文化財報告書の出典を明記した上で、その内容をウィキペディアに地域住民参加型で編集してもらうことで、地域住民に



図5 Wikipedia出典テンプレート



図6 ウィキペディア上の出典表記

よる地域の文化財情報発信を地域の博物館、郷土資料館を情報発信拠点として実現することが可能になる。

このウィキペディア文化財の実践的試みとして、2021年9月4日に「文化財×ウィキペディア：信頼できる文化財記事作成を学ぶワークショップ」がオンラインにて行われた（考古形態測定学研究会2021）。このワークショップでは、ウィキペディアのライセンスや編集方法、出典記載方法などについて学んだ上で、全国遺跡報告総覧のウィキペディア出典テンプレートを利用したウィキペディア記事編集のハンズオンが実施された。当日は文化財関係者などが参加し、東京都小金井市の西之台遺跡、大阪府松原市の河合遺跡、飛騨宮川考古民俗館などの新規のウィキペディアページが作成された。

これまで一般の地域住民を対象にウィキペディアタウンで編集方法を指導していた経験から、本ワークショップでは、文化財関係者の資料を引用した文

章作成能力が高いことを実感した。また、多くの参加者は事前にウィキペディアの編集対象を決定し、資料を事前に読み込み、資料を引用した文章の作成も含めた十分な準備をした上で参加していた。そのため、90分程度の編集作業にも関わらず、多数の新規ウィキペディアページ作成を行うことができた。

その成果と意義は、2021年10月30、31日にオンラインにて実施された日本情報考古学会第45回大会オンラインポスターセッションにおいて、「文化財×Wikipedia—地域における考古学・文化財情報発信の方法として—」として、アカデミックな場においても発表・議論されている(野口ほか2021)。今後は遺跡や古墳など文化財の種類ごとにウィキペディア上に記載すべき必須項目の整理とその記述方法のマニュアル化を進めていきたいと考えている。

おわりに

実は筆者を含むウィキペディア文化財の取り組み関係者の多くは、実際に対面したことが無い。私達はインターネット上の音声SNS「clubhouse」の中で知り合い、オンラインの音声コミュニケーションを発端として、この新たな試みを実施し始めている。筆者は図書館行政に携わってきた経歴から図書館関係者とのつながりが多く、これまで図書館中心にウィキペディアタウンを行ってきた。GLAM連携の必要性和展望を感じながらも、文化財関係者との人的な接点が少ないことから、博物館、資料館との連携には至っていなかった。今回、全く分野、背景の違う人物同士がclubhouseというオンライン上で音声交流することで、文化財関係者との接点ができ、新たな実践的取り組みが可能となった。そして、その成果をアカデミックに日本情報考古学会にて発表できたことは、音声SNSによるアカデミック分野における社会的変革の端緒的な出来事であると感じている。

【引用文献】

青木和人 2016 カレントアウェアネス -E1852「ウィキペディア・タウン by 京都府立南陽高等学校」[https://](https://current.ndl.go.jp/e1852)

current.ndl.go.jp/e1852 (2021/12/7 閲覧)

ウィキメディア財団 2015「Wikipedia ARTS 京都・PARASOPHIA」https://ja.wikipedia.org/wiki/プロジェクト:アウトリーチ/GLAM#Wikipedia_ARTS_京都・PARASOPHIA (2021/12/7 閲覧)

ウィキメディア財団 2021a「プロジェクトアウトリーチ/ウィキペディアタウン/アーカイブ」<https://onl.tw/KWxbTAP> (2021/12/7 閲覧)

ウィキメディア財団 2021b「Wikipedia:五本の柱」<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E4%BA%94%E6%9C%AC%E3%81%AE%E6%9F%B1> (2021/12/7 閲覧)

ウィキメディア財団 2021c「Wikipedia:検証可能性」<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:検証可能性> (2021/12/7 閲覧)

考古形態測定学研究会 2021「考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online#17 | Peatix」<https://peatix.com/event/2180841/view> (2021/12/7 閲覧)

codefor山城 2021「クラブハウス【ウィキペディアタウン】ウィキペディア×文化財「全国遺跡報告総覧に書誌情報の Wikipedia テンプレート出力が実装」<https://note.com/ujigis/n/n0e9c40fb9619> (2021/12/7 閲覧)

高森町教育委員会 2016「平成 26 年度高森町埋蔵文化財発掘調査報告書」全国遺跡報告総覧 <https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/16478> (2021/12/7 閲覧)

奈良文化財研究所 2021「文化財論文ナビ」<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/search-article> (2021/12/7 閲覧)

日本図書館協会図書館政策特別委員会 2004「公立図書館の任務と目標」<http://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/236/default.aspx> (2021/12/7 閲覧)

野口 淳, 青木和人, 荒井翔平, 高田祐一, 三好清超, 大矢祐司, 木村 聡 2021「文化財×Wikipedia—地域における考古学・文化財情報発信の方法として—」『日本情報考古学会第45回大会オンラインポスターセッション』オンライン

文部科学省 2005「地域の情報ハブとしての図書館—課題解決型の図書館を目指して—」goo.gl/L8VEz6 (2021/12/7 閲覧)